もも新聞

発行日 十二月十日
発行者 冨岡 千夏

めずらしい!! すごい!! 色々なもも

「ぽん的な桃。

桃といえば、丸くてピンク色でうっすらもが生えていて…というイメージがあります。ですが、世の中にはそんな桃の特ちょうに当てはまらない奇ばっな形の桃があります。それでは、上の桃の写真と比べながら、めずらしい桃たちを見てみましょう。

No.1 ぺちゃんこなもも

このぺちゃんこにつぶれた桃の不良品(ではありません!)みたいな桃は、「大紅蟠桃(だいこうばんとう)」といいます。「見まずそうに見えますが、甘味が強く、肉質もなめらかな高級品です。

No.2 生で食べられる黄桃

黄桃といえばかん詰めに入っている桃というイメージがありますが、この「黄金桃」という桃はふつうの桃のように生で食べることができます。しかも、皮だけではなくふつうの黄桃のように中も黄色いのです。

その他に、真っ白で全く色がついていない桃も桃の産地の所で出回っているらしいよ!

もも豆ちしきその1

No.3 ももの変種!!

この桃とはまたちがう感じの果物は「ネクタリン」という桃の変種です。桃よりひとまわり小さく、表面はツルツルしています。びっしり果肉が詰まっていて、オレンジ色をしているので桃とあんずを合わせたような感じです。

花については後ほど…

もも豆ちしきその2

実は、桃の花や実だけじゃなく、木もはしなどとして利用されているんだよ。

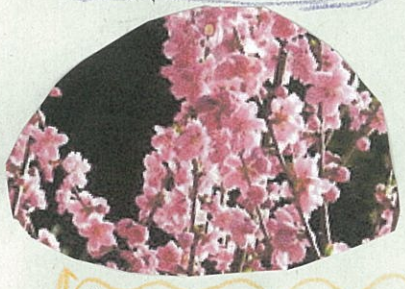
ももから色々なものができる!

だけじゃない!!

実は、桃は食べるだけではなく漢方薬など色々なものになります。

観賞用になる

観賞用の桃の花。



花がたくさん咲くとキレイ!

桃の中には、桜のように花を楽しむ観賞用の桃の品種もあります。この写真の花のように八重咲きだったり枝垂れ性だったりと桜にも負けない様々なきれいな品種があります。ですが、基本的には残念ながら実は小さく食べられません。

薬になる

意外なことに桃は薬にもなります。桃の葉は、お湯に入れて一緒につかるとあせもなどに効くと言われています。また、種の内核は漢方薬になり、血行を改ぜんする薬になります。また、つぼみも便秘薬などに使われます。

もものびっくりQ&A

Q. 桃には何でわれ目があるの?

A. われ目は「包合線」といい、栄養を運ぶ線が通っています。包合線のおかげでわれ目のまわりは太っていきますが、われ目の部分だけは太りが悪いためくぼんだままなのです。

Q. 昔の桃はどんな味だったの?

A. 江戸末期~明治初頭にかけて数十種類の桃がさいばいされていました。ですが、当時の桃はどれも小ぶりでかたくすっぱくてしぶかったようです。

Q. 観賞用なのに食べられる桃は無いの?

A. あります。「ひなのたき」という観賞用で実も少し小さいですが食べられる新品種ができています。

編集後記

私はふだんから桃が大好きで、白桃ゼリーや桃のヨーグルトをよく食べていましたが、いざこうやって桃をよく調べてみると知らないことがたくさんありました。

中でも一番びっくりしたのは、蟠桃を調べた時です。パッと見台風などでつぶれた桃かと思いましたが、これが品種だと分かった時にはすごくびっくりしました。

ここで調べた桃を今度は食べてみたいです。